

動画コンテンツを利用した体育の学習

岡部小学校（実践・報告者） 加藤 英俊

1 単元名 クロール（水泳） 第5学年（体育）

2 単元の目標

- （１）泳ぎの技能を身に付け、続けて長く泳ぐことができる。（技能）
 （２）教え合ったり、励まし合ったりしながら、協力して根気強く運動することができる。（態度）
 （３）水泳の決まりや約束を守って安全に水泳をすることができる。（態度）
 （４）自分の能力に合った課題を決め、練習の仕方を選びながら学習することができる。（学び方）

3 情報機器活用の意図

本単元は、クロールの泳ぎの技能を身に付け、長く続けて泳ぐことを目標にしている。5 学年の児童は、3 年・4 年生でクロールを学習しており本学年では総仕上げの段階にある。だが、長く泳げる児童と苦手の児童とがあり、どの児童にもクロールの動きが十分身につけているとはいえない。そこで、動画コンテンツを利用し、クロールの動きのポイント（息つき・キック・手のかき）がわかる学習を展開することで、泳ぎの良いイメージが理解でき、よりきれいな泳ぎにつながると考える。また、ペア学習において友達の動きの良い点や問題点を見つけ、相手に伝えるときの具体的な言葉や動きに動画コンテンツは役立つと考える。

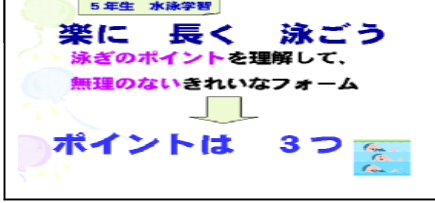
4 授業実践概要

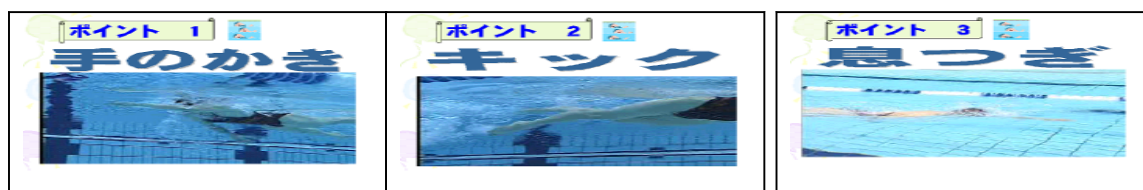
（１）学習課程

時間	1	2	3	4	5	6	7	8
10	集合・あいさつ・人数確認・健康 オリエンテーション	水慣れ（水中ダンス） 二人一組のび			室内での 学習 P C を活 用しての	観察・準備運動・シャワー 水慣れ（水中ダンス） 二人一組のび		
20	学習のねらい い進め方 がわかる ・水泳の約	60秒 チャレンジタイム ねらい クロールの動きのポ イント知り、よりきれいな泳ぎ に挑戦して楽しむ。			クロール のポイン ト学習	60秒 チャレンジ ねらい 5・6時間～課題 別のペア学習		クロール の泳力 検定
30	束	2・3・4時間～生活班での ペア学習						
40		ねらい グループリレーをし て楽しむ。 ○人数確認・まとめ・整理運動				ねらい グループリレー ○人数確認・まとめ		

（２）展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点
導入	1 集合 整列 あいさつ 健康観察 2 本時の学習の内容とねらいの確認	○素早く集合、元気のよい挨拶で学習 を始める。
展開	3 準備運動 （屈伸 伸脚 前後屈 手首 ストレッチ）	○各部位をしっかりと伸ばし、準備を させる。

4 岡部小体操を行う。タタロチカを踊る。	○各運動をしっかりと行わせる。
5 学習のねらいを確認する。	
クロールの動きのポイントを知り、よりきれいな泳ぎを理解することができる。	
・プレゼンテーションソフトで作成した、水泳学習のコンテンツを見ながら、クロールの動きのポイントを理解する。 理想的なクロールの動き けのび 息つき 手のかき キック ・学習カードを見ながら、各練習のポイントをまとめる。 <u>ア</u> 手のかき 腕を前にグーッと伸ばして、遠くに。 からだの下を 最後は太ももまで ひじの力をぬいてスッとあげる。 <u>イ</u> キック 太ももを大きく動かして。 足首をやわらかく使い親指と親指がこすれるように。 <u>ズン</u>、タッタッ <u>ズン</u>、タッタッのリズムで。 <u>ウ</u> 息つき 水の中では、口を閉じる。 水中で、鼻から少し吐く。 んー（鼻） パッ！（口） ハア ンッ うでをまくらに。伸ばした腕に、耳をつける。 自分のわきの下から空を見る。	○動画を用いて、クロールの動きをイメージ化させる。 ○学習カードで確認させながら、動きのポイントを理解させる。    ○P C 画面と学習カードを結びつけられるように説明する。



5 成果と課題

- 普段ではあまり確認できない水中での動きなどが動画で見ることができ、意欲的に学習ができた。
- 動画の途中で画面の動きを止めることができ、ポイントをより詳しく説明することができた。
- 児童の実際の泳ぎを撮影できコンテンツに利用できれば、より個人の課題にあった学習が展開できると考える。

デジタル資料『I P A 教育用画像素材集』 <http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/h1swim/index.htm>

